

こいつは嘘をついている！

オレは子供の頃から震度7の地震を2回も経験しているんだから（どんな地震がきても大丈夫だ）、と言った男がいるらしいが、こいつは嘘をついている。「子供の頃」がいつのことかわからないが、前後の文脈からみて少なくとも30～40年以上前のことだろう。**残念ながら30年前には震度7は存在しなかった。**

震度を測定するのは、多分あちこちに震度計を設置し、どのくらい揺れたかを測定しその数値を発表するだけである。地震の大きさ・強さとは直接の関係はない。1995年の阪神淡路大震災のとき、ボクの住んでいた所は、大阪府でも有数の被害がでたところである。吹田市に幼稚園・小学校・中学校がいくつあるか知らないが、100は超えるだろう。吹田市教育委員会に対し、見舞金が下賜されたが、使い道に困る程度のものであった。委員会は結局、うちの子らが通っていた幼稚園、小学校、中学校の3校に全部渡した。吹田市の中でももっとも被害が大きかった所為である。ものすごく揺れて「死ぬか」と思った。ところが大阪の震度は「3」であった。「こんだけ揺れて震度3なんかあるはずがない。震度5ゆうてもええくらいや」が実感。このマスコミ発表と自分たちの経験との相違については多くの人がクレームをつけたくらいで、気象庁も気がついたのだろう、以来、震度についての考えを改め、震度5強、5弱、6強、6弱などと細かく分類するようになった。特に神戸の揺れについては、**とても震度6では説明しきれないことに気付いて、新たに震度7を導入した。**だから「子供の頃から震度7・・・」というのは間違っている。だから時系列で考えても嘘をついている。最大限譲歩しても、少なくとも勘違いしている。

しょうもないことを言うくらいに思うかもしれないが、これが**歴史認識**になってくると、話が変わる。意図的になかったことまであったことのように表現しだすのである。逆にあったことまでなかったかのように報道しない朝日新聞などその典型である。だからきちんちした歴史を学べというのである。よその国が「日本は歴史認識が間違っている」などと、よく彼らが言う、「内政干渉」に毅然たる態度をとってこなかったいままでの政府が弱腰だっただけである。それを土下座外交と呼んでいる。